

spGate シリーズラインナップ比較

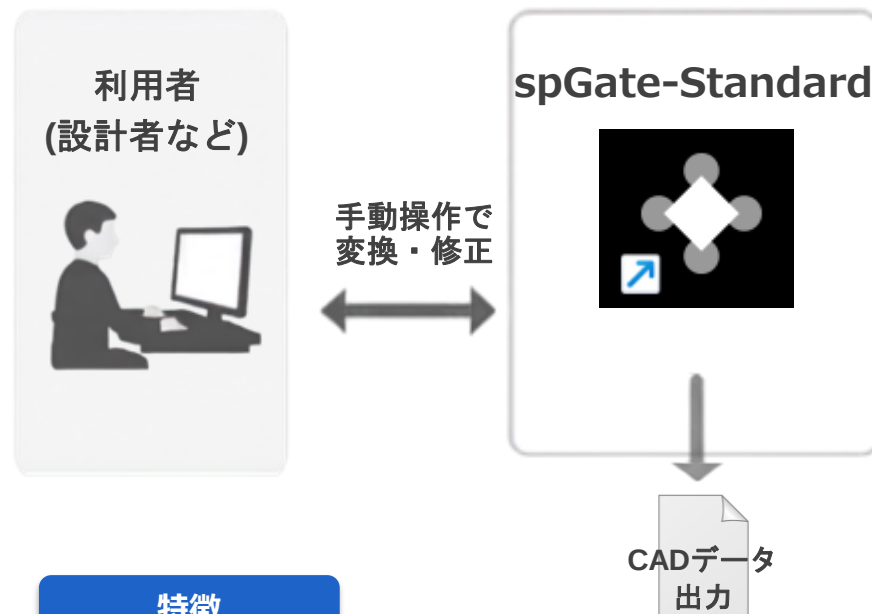
運用スタイルや業務規模に合わせてお選びいただけます。

製造業・設計・デザイン企業

販社・ベンダー

spGate-Standard

スタンドアロン型



特徴

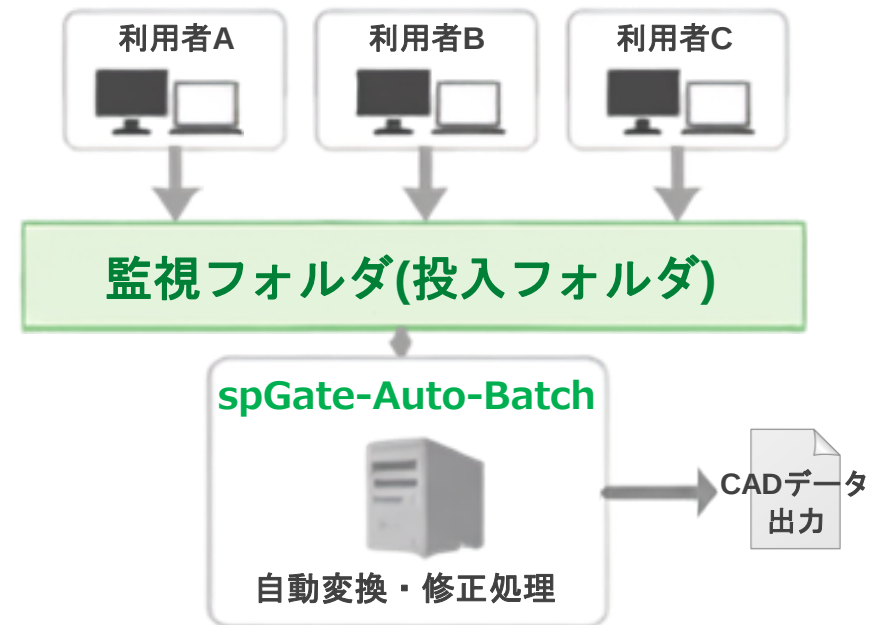
- 個人のPCで完結するスタンドアロン利用
- オペレーターが手でデータを変換・修正
- 小規模・スポット的な変換作業に最適
- ヒーリング、PDQチェック、形状比較など多彩な機能

主な利用シーン

- 設計者が個別に変換・修正を行う場合
- 検証・評価、少量データの変換
- 特定の担当者が都度対応する業務

spGate-Auto-Batch

フォルダ監視・自動バッチ型



特徴

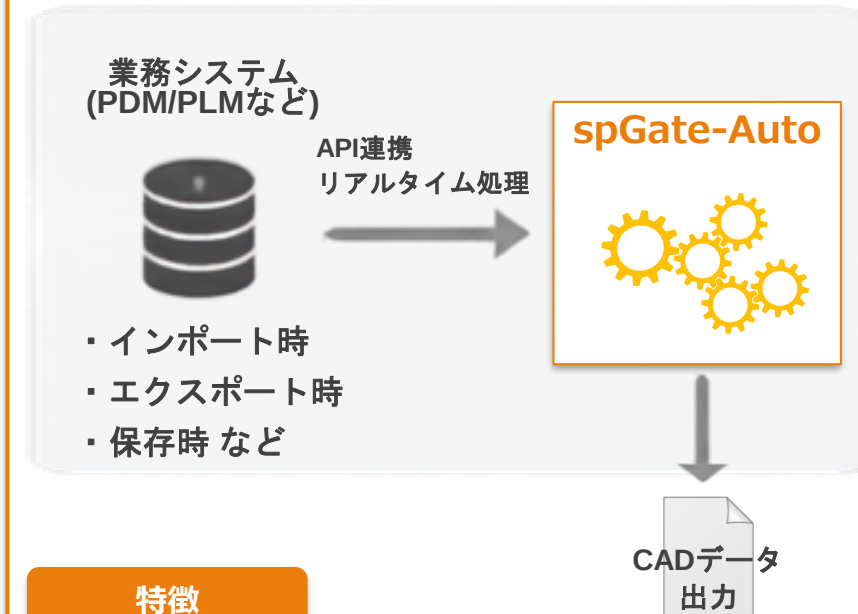
- 複数ユーザーが共通で利用できるサーバー型システム
- フォルダを監視し、投入されたデータを自動処理
- 大量データの変換・修正を効率的に実行
- 24時間365日無人運転が可能
- 夜間バッチ処理にも最適

主な利用シーン

- 大量のCADデータをまとめて変換したい場合
- 全社・部門共通の変換環境として利用したい場合
- 夜間や休日に自動で変換処理を行いたい場合

spGate-Auto

システム組み込み型



特徴

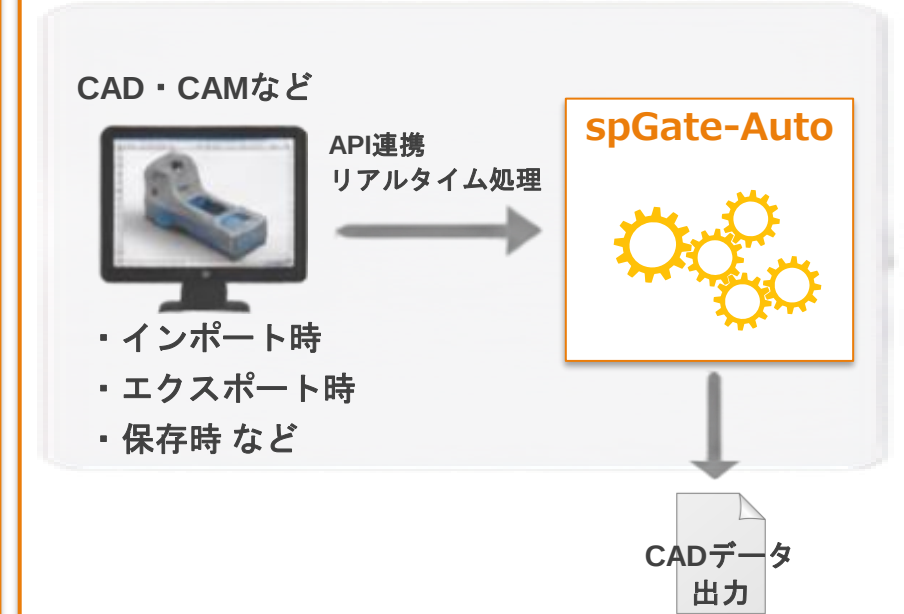
- 既存の業務システムと連携し、リアルタイムに自動処理
- インポート時の自動修正・エクスポート時の自動変換
- ユーザー操作不要でシームレスにデータを処理
- 業務プロセスに組み込み、変換業務を完全自動化

主な利用シーン

- PDM/PLMなどのシステムと連携したい場合
- 設計・開発プロセスの中で自動変換を行いたい場合
- 業務効率化・標準化・ヒューマンエラー防止を実現したい場合

spGate-Auto

システム組み込み型



特徴

- CADデータ処理機能をゼロから開発不要
- CADソフトのバージョンアップへの追従負荷を軽減

主な利用シーン

- PDM/PLMなどのシステムと連携したい場合
- 設計・開発プロセスの中で自動変換を行いたい場合
- 業務効率化・標準化・ヒューマンエラー防止を実現したい場合
- JSTAMP(JSOL製)、iCADなどに搭載

個人・小規模向け

手動中心の運用

部門・全社での大量処理向け

自動（バッチ処理）中心の運用

システム連携・業務プロセス全体の自動化向け

自動（リアルタイム）中心の運用